

ソバ「会津のかおり」の栽培法

福島県水田畑作課

「会津のかおり」の特徴		月	7月			8月			9月			10月		
		旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
<p>☆「会津のかおり」は、会津地方の在来種から選抜育成した品種である。</p> <p>☆「会津のかおり」は、会津地方の在来種の長所を生かしながら、収量性、外観品質、食味をさらに向上させた品種である。</p> <p>☆熟期は、「信濃1号」より数日早く、「会津在来種」並み～数日遅い品種である。</p> <p>☆草丈はやや短く、分枝数は並み～やや多い草姿をしている。</p> <p>☆収量は「会津在来種」よりやや高く、粒張りが良く、外観品質に優れている。</p> <p>☆製麺時の割れや切れの発生が少なく、「香り」「味」などの食味も良好である。</p>	<p>管理作業</p> <p>生育・作業</p> <p>生育の目安</p>	<p>種子の準備 → 施肥・耕うん・整地・播種 → 中耕・除草 → 収穫・乾燥・調製</p>												
		<p>播種期 開花期 成熟期</p> <p>苗立本数の目標 100～150本/m² 開花期の生育 草丈 50～60cm 収穫適期の目安 子実の70～80%が黒褐色</p>												
<p>基本的な栽培法</p> <p>☆播種適期</p> <p>会津山間 7月中旬～7月下旬</p> <p>会津平坦 7月下旬～8月上旬</p> <p>阿武隈山間 7月下旬～8月上旬</p> <p>中通り平坦 8月上旬～8月中旬</p> <p>浜通り平坦 8月上旬～8月中旬</p> <p>☆播種量</p> <p>条播・ドリル播 3～5kg/10a</p> <p>全面全層播 5～7kg/10a</p> <p>☆施肥量</p> <p>チッソ 0～3kg/10a</p> <p>リン酸 3～5kg/10a</p> <p>カリ 2～3kg/10a</p> <p>☆チッソ施用量は、畑の肥沃度に合わせて調整し、生育量不足時は、開花始め頃までにチッソ2～3kg/10aを追肥する。</p> <p>☆土づくり</p> <p>石灰 80～100kg/10a</p> <p>堆肥 1～1.5t/10a</p> <p>ようりん 30～40kg/10a(黒ボク土地帯)</p>		<p>管理のポイント</p>	<p>苗立本数を確保する</p> <p>☆種子はよく選別し充実したものを使う。</p> <p>☆ソバは土壌適応性が広いが、最適な土壌pHは6前後であることから、pHが低い場合は、石灰を施用する。</p> <p>☆ソバの生育に対する施用効果はリン酸が最も高いことから、黒ボク土などリン酸が効きにくい条件ではリン酸を多めに施用する。</p> <p>☆播種期が遅くなると大きく減収することから、適期にきちんと播種する。</p> <p>☆播種量は特に全面全層播(バラ播き)で多すぎる傾向にあり、これが作柄を不安定にしていることから、標準播種量を守ってきちんと播種する。</p>			<p>湿害を防ぎ、雑草を抑える</p> <p>☆ソバは湿害にたいへん弱い作物なので、栽培ほ場の選定に当たっては、湿害を受けにくい畑を選ぶ。</p> <p>☆転換畑ではほ場の周囲に深さ30cmの溝を掘ったり、数m間隔で排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。</p> <p>☆条播では開花期までに中耕による除草を行う。</p> <p>☆除草剤を使用する場合は、使用時期や使用量を守って適正に使用する。</p> <p>☆ほ場内だけでなく、周辺の雑草防除をきちんと行い、雑草の生えにくい環境を整えることが大切である。</p>			<p>風味の良いソバに仕上げる</p> <p>☆風味のよいソバを生産するためには、早めの収穫が大切であり、刈り遅れにならないように注意する。</p> <p>☆機械乾燥では、通風温度を30℃以下にし、急激な乾燥を避ける。</p> <p>☆玄ソバの水分基準である16%を守り、過乾燥にならないようにする。</p> <p>☆被害粒や異物の除去など調製作業を的確に行い、品質の良い製品づくりに努める。</p>					
			<p>自家採種を行う場合の留意点</p> <p>☆他との交雑を防ぐために、他の品種から離れた畑から採種するとともに、収穫物の中で最も品質の良いものを種子とする。</p> <p>☆「会津のかおり」の品種特性を維持するため、計画的な種子更新を行う。</p>											
		<p>「会津のかおり」の良質安定多収栽培は 適期播種・適期収穫で実現！</p>												